

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 網文

いろは考えがあるから面白い
いろはな人がいるから楽しい

No. 656

2023年7月 **7** 刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- マニエール至上主義の弊害を 2
- 国民国家について(続き) 6
- 「アロ」の田植之始りまして他 8
- お便りから 12
- 山仕事(番外「笠井屋」) 19
- パスポートを更新しました 21
- 「古前」が始めたんだろ 22
- マイナカード返納続々 23
- 家庭飼育環境に目指針 24
- 百姓ジャパンでよひいひ 25
- 「安心情報」だけ提供 26
- け・い・じ・ば・ん



泉ゆきを「じはいつも山頭火」
(日本習字普及協会)から

クラスタ-弾はダメ。
活い戦争が
エスカレートする。

6月末日現在の
会員数 210名

この見本誌をみて新たに
「読んでみようか」という方は、
年会費 4,000円を
郵便局で 00100-2-20630
「雑報友の会」
へ 掛い込んで下さい。

題 字 故 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 故 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ-330

※ この号の切手は夏のグリーティング。

山仕事(番外「笠井屋」)

遠州 横須賀(現 静岡・掛川市)は、静かな街だ。ふだんに行くと人通りがなく、時間が停まっているように感じる。

だが、住んでいる人々は熱い。毎年、4月の第一金・土・日曜日に行われる三熊野神社例大祭のときは、街が沸き返る。

そのお祭りのまじりに「横須賀の362日は、4月のお祭りのためにある」とうたがいたお祭り男が武ちゃん(鈴木武史さん)だ。面が見がよく、頼まれるとフットワークよく出かけていく。各地のお祭にも詳しく、江戸川大学で講演したこともある。

その武ちゃんが亡くなり、のこされた佳子さんはしばし動きがとまった。最近、ようやく気力をとり戻し、家業の「茶碗屋」を続けるが、店舗を改修して地域の人々の拠点にしたいと動きたした。

店にあった品々の大半は同業者に夕ダ同然で引きとってもらったが、まだかなりの品が残る。棚などの備品もある。それら改修前に片付けたいと、山崎さんを通じて猫の手クラブに協力要請があった。うちはなんでも、皆で協力することになった。

出発前日の5月30日、ほんだで2時間テニスのおと、東京・高井戸に出かけて山ちゃん、藤田夫妻などテニス。その夜半、左すねの痛みで目がさめた。さすつたりとびはねたりしてもおさまらず、心臓に負担をかけるときいて控えていた「68(芍薬甘草湯)」に助けを求めた。

明けで5月31日。いつもより早く出て9:27のこだまにのる。11:06掛川着。駅構内の店でサンドイッチ3種(ネギ塩チキン、きのこブレッド、トマトカマンベール)を購入。原田、山崎さんを待って天竜線(天竜浜名湖鉄道)に乗車。いつもは敷地駅で降りるが、その手前遠州森駅で下車。講談さばりみ 森の石松ゆかりの街だ。

久米真弓さんの車で薄場(うすば)のお宅へ。竹中さんが待っていて、5人で竹の枝の整理。作業後、袋井市の「和(やわらぎ)」の湯へ。入浴料1,000円と若干高いが、泉質の異なる湯が楽しめる。

薄場は昔、菅原道実に仕えた武士が流れ着いたところ。ちょっとした隠れ里の風情がある。南西の方向にゆるやかに傾斜した土地に、真々と家がある。周囲は山林で湧水もあり、畑と果樹、竹林がひろがる。ほくには桃添郷のように思える。

久米さんのお宅は、古い農家を改装したもの。随所に久米さんの手が加わっている。まわりは自然豊か。すど下の川にはホタルが舞い、勝手にカモシカが寄ってきたこともあるそうだ。そのかわり、シヤインジシに畑を荒らされる。

その夜は、久米さんの料理で竹中さんとお姉さんと一緒に夕食をいただく。焼きナス、竹中さん持参のソラマメ、刺し身(カツオ、タイ、イサキ)、きんぴら、野菜の煮物(久米さんが育てた)、焼き豚、にゅうめんなど。調子にのって大ハすぎた。

6月1日(木)、くもり。掛川駅で正士、若林さんに千葉ちゃん(野口三江さん)と合流、笠井屋へ。

この地の商家はこうなのか、奥行きが長く、中央に通路がある。何度かに分けて建て増したのだろう。奥に別棟がある。

大方は処分したとはいえ、まだかなりの品々が残っていた。大小さまざまなカヌ、今戸焼のタヌキ、陶製の河童まであった。

品物によって、奥の別棟に運んだり、近くに借りた倉庫に運んだり、佳子さんの指示に従って動く。2階から大きなマットレスを運び出すときは、英ちゃん、山ちゃん、若林さんと力持ちが当たる。さらに、店内の棚なども運び出す。

あらめた片付いたところで弁当の昼食。ぼりはなんだか疲れ臭い味。

午後は、家財道具の移動。母屋の2階で雨漏りしているところ、布団や座布団の類いまで移動させる。

最後に粗大ゴミを軽トラに積み込んで、佳子さんと若林さんで処分場へ。ガラとした店内に別れを告げ、久米さんに掛川駅まで送ってもらい、帰宅。秋には、改装した店に品物を戻す作業があるようだ。